

曳かれ行く男（1929）

CONDEMMED

メディア 映画

ジャンル

製作国 アメリカ

色彩 B&W

時間 86分

初公開日 1931/10

公開情報 劇場公開

【解説】

南米のフランス領の流刑島を舞台に繰り広げられる、エキゾティシズムたっぷりのロマンス篇。幼い時から窃盗を重ね、ついにその監獄の島“悪魔島”送りとなった主人公ミシェル（コールマン）は、見栄っ張りの所長の家の執事として完璧に働く。夫人（ハーディング）を溺愛していた所長は、彼女に家事をさせたがらず、かねてから囚人を置きたがったが、囚人を恐れる彼女が反対していたのだ。が、この優男は美しい妻に惚れてしまい、彼女も彼を心憎からず思い、仲睦まじい夕食の買物はたちまち、近隣の有閑奥様連の恰好の噂話のタネとなる。これを耳にし、激怒した所長は、彼を刑罰房に監禁。が、その中でますます夫人への想いを募らしたミシェルは仲間の協力を得て脱走。ジャングルを逃げまどい夫人を訪ね、近くの島の港から発つ船での再会を約して別行動をとる。しかし、それは所長に感づかれ、追っ手は目前に。と、そこを共に脱走したジャックが助けようと飛び出して、逆に警察の銃弾に撃ち抜かれ、海に沈んでしまう。“気高く生きろ”との遺言が胸に沁みたミシェルは投降。“いつか会える”と彼女と別れるのだった。この後のとってつけたようなハッピー・エンドは、そうしないと当時の観客が許さなかったのだろうが、ちょっと余計。ウィリアム・キャメロン・メンジースのセットが美的かつ劇的で、若くいなせなコールマンの魅力でいっぱいの佳作。

【クレジット】

監督 ウェズリー・ラッグルス Wesley Ruggles

原作 ブレア・ナイルズ

脚本 シドニー・ハワード Sidney Howard

撮影 ジョージ・バーンズ George Barnes

グレッグ・トーランド Gregg Toland

出演 ロナルド・コールマン Ronald Colman

アン・ハーディング Ann Harding

ルイス・ウォルハイム Louis Wolheim

ダドリー・ディッグス Dudley Digges